

第2回 四万十町地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

- 開催日時：令和元年6月18日（火）9時00分～11時00分
 - 会場：四万十町役場本庁東庁舎 1階多目的大ホール
 - 出席者：別紙のとおり
-

1. 開会（会長挨拶）

2. 前回の議事録確認

事務局より議事録の振り返り、また鉄道予土線について現況、今後の四万十町の経過とあり方について説明を行った。

3. 新規委員の紹介と委託業者の紹介

新規委員に町長が委嘱を行った。またそれに伴い新規委員、委託業者の自己紹介が行われた。

4. 協議事項

- (1) 社会現況調査項目の確認（資料1）
- (2) 住民ニーズ調査方法の確認（資料2）

- 事務局から資料1、資料2、資料2-1、資料2-2について説明を行った。

【意見】

（谷崎委員）

地域が抱える問題点は住民が最もよく知っている。地域の住民の意向、希望が大切であると感じる。住民の声を聞くことは大変いいことだと思う。しかしアンケートについて、まず字が小さいと感じる。また高齢者には難しい漢字、言葉は使わない方がいいと思う。フリガナもふった方が親切。

（西内委員）

資料2-1の2ページ、問2の質問は回答結果をデータとしてどう使うのか、どうやって将来につなげるのかがわかりにくい。もっと具体的に様々な公共交通サービスを挙げて、賛成反対どちらか答えやすいようにしてはどうか。

資料2-2の通学アンケートについて、問1、問2で対象者の書き方が違うため、誰が回答したらいいのかが分かりづらい。また問4の選択肢1に行政主導と決めつけているのはなぜか。将来像として学生が移動手段を考える、協議する形も可能性としては考えられる。

学生の公共交通の認知度は低いと思う。多くの学生が関心をもってもらうことができるアンケートにしてもらいたい。

(事務局)

資料2-1については、例えば地区別に意見を収集し、今後の利用促進につながる取り組みを行っていきたい。その際に地区の公共交通利用の傾向がわかっているか、いないかでアプローチの仕方も変わってくる。その時の根拠として使いたいと思っている。しかしより良くするために再度事務局で検討を行う。

資料2-2問1については対象がわかりやすいように修正を行う。また問4については事務局と検討を行う。

(三浦委員)

調査対象者が18歳以上の男女3,500人は全体ではどれくらいの割合か。

(事務局)

選挙の有権者数が約15,000人なので、全体の約1/4程度になる。

(上戸委員)

資料2-1(3)3について、もっと具体的に、どうしたら乗っていただけるかまで踏み込んで問うのはどうか。

今年度より、公共交通確保維持事業の補助の新しい要件として公共交通網形成計画に定めた目標値と実績値の評価が必要となっている。しっかりと行ってもらいたい。

また町として立地適正化計画策定の検討もお願いしたい。

(事務局)

資料2-1(3)3については事務局と検討を行う。

資料1で取りまとめる際は、数字を把握し、具体的に取り組むを行っていく。

(國元委員)

アンケートの回収率はどのくらいのを想定しているのか。若い世帯はアンケートに答えるとは思わない。もっと広く地域の声を聞く方法はないか。

(事務局)

高知県内の自治体では平均すると4割ほどの回収率になっている。困っている地区ほど回収率は高くなる傾向にある。

(会長)

いきいき百歳体操などの集まりや、地区別意見交換会を行い、地域の声をひろっていくことにしている。地区の意向は一定反映するようにしていると考えている。

(会長)

アンケートの設問を答えるのが簡単な属性の項目から回答していくようにしてはどうか。

(事務局)

属性を冒頭に持つてくることでアンケートそのものに回答したくないという意見が他自治体であった。より多くの方に答えていただくため、わざと最後に回答者属性を持つてきている。

(川村委員)

依頼文書の内容によって、回収率が変わってくると思う。協議会の名前で郵送するのであれば依頼文書も協議した方がよかったと思う。町長名で郵送する場合はいいと思うが。

(会長)

町長名で郵送することを検討している。

(中平委員)

商業施設は大型店舗のみだが、商店などは入れないのか。大正地域まで、「ライフショップまつした」が移動販売を行っているため追加するのはどうか。

アンケートについて、関心を高めるためには、質問に「住民参加」など住民の方に意識してもらうように提案するのが必要だと思う。

(事務局)

商業施設については、地区の声に合わせて今後増えていくものだと思う。

事務局と協議して、住民の参画についてアンケートにもりこむかどうか検討する。

(國元委員)

移動手段にかかる費用として1億700万円というのは金額が大きいので、これ以上費用を増やす意見は少ないと思う。住民の意識をもっと高めるためにも住民参画という文言を入れてはどうか。前回は住民の参画について質問があったが反映はしないのか。

(事務局)

今回のアンケートは四万十町の移動手段について調査し、課題の抽出につなげるものである。地域の課題について住民参画の移動手段が適しているとなれば、具体的な取り組み検討の段階で住民参画について検討を進める。

(山本委員)

四万十町の現状を把握し、全体のバランスを見ながら検討を行っていききたい。町民の移動手段確保として、行政として何が適切かを今後考えていききたい。

(西内委員)

この場合はデータを分析し、住民の参画が必要であれば計画に盛り込み、計画に盛り込めば施策を検討する。この意思決定を行う場だと思っている。

(谷崎委員)

資料2-1(7) 移動手段を問う質問について、セニアカーも追加した方がよいと思う。利用している住民もいる。

(3) 今後のスケジュールの確認(資料3)

●事務局から資料3について説明を行った。

【意見なし】

5. その他

事務局より、視察研修案について説明。

【意見】

(國元委員)

日程は8月を予定しているとのことだが、四万十町の課題、現状を含めて方向性がある程度決まってから視察先を検討するべきではないか。

(事務局)

8月にこだわっているわけではないため、ある程度方向性が決まってから検討する。

(中平委員)

視察先について、広島県のデマンドバスは町からの委託ではないか。バスが大きいため住民が参画できないように思う。安芸高田市のおたすけワゴンについては、デマンドバスが入れない場所は住民が参画していると説明があったので、ここに行くのであれば住民が参画しているところを視察したい。上勝町についても車のサイズは分からないが、住民が参画しているような事例があれば視察したい。

(事務局)

北広島町についてはタクシー会社に運行委託しているため、住民が参画しているものではない。徳島県の上勝町については町民が所有している車を運転する仕組みを構築しているため、車種については多種多様にあると思う。

(八木委員)

再確認であるが、地域公共交通活性化協議会は公共交通網形成計画策定が趣旨・目的だと理解しており、まずは地域公共交通が位置づけられていると思う。その中で総合振興計画などの上位計画と整理しながら検討していく必要があると思う。今はまだ自家用有償運送と一緒に協議するべきではないと考える。協議会の目的をはっきりさせ、もっとシンプルに協議会を進行した方がいいと感じる。

(上戸委員)

事務局より提案の視察については、四万十町とは違う事例だと思うが、新しい気づきはあると思う。

住民主体については、今ある交通手段を考え、この移動手段が無くなったらどうなるのか、危機感を持っていただき、さまざまな移動手段がある中でバランスをみながら、住民主体の検討・協議をお願いしたい。

(会長)

現状の公共交通は限界にきていると思う。現体制ではできないことをこの協議会で検討し、将来を見据え、まちづくりを行っていくのが公共交通活性化協議会の目的だと思っている。

視察については、全国の先進事例の事務局より情報を提供し、意向調査をふまえ、四万十町が目指すべき公共交通の在り方といった視点で視察先を検討していきたい。秋以降で調整を行っていきたい。

(西内委員)

広い面積を有しているという特性も考慮した視察先も検討してはどうかと思う。

(会長)

四万十町の特性も含めて検討したい。

6. 閉会